

科目名	論理国語	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評 価 基 準	S 使える	語句・語彙・文章の構成や展開について理解し、得られた知識を活用できる。また、文章に含まれている情報の扱い方について理解を深め、得られた知識を活用できる。	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において、多面的・多角的な視点から評価することができる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。	
B できる	実社会で必要な国語の知識や技能への関心を持つことができる。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つことができる。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。	
C する	実社会において必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。	
評価方法	授業態度の観察 定期考査・小テスト 課題提出 漢字テスト	授業態度の観察 定期考査・小テスト 課題提出 文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	1 自己を見つめて 2 思考を深める 3 社会に向かって
2 学 期	4 視点を変えて 5 問いを深めて書く 6 現代を考える 7 未来に目を向けて
3 学 期	

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』
大修館書店『新編 論理国語 学習ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習

科目名	総合数学	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 準	S 使える	数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとするすることができる。
	A わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。
評価方法	定期考査 授業での演習 確認小テスト	定期考査 提出物の状況 グループ学習での発問 授業での板書・発表	授業態度 提出物の状況 グループ学習での活動 授業での板書・発表	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	重要基礎 式と計算・方程式と不等式 図形と面積、体積 いろいろな問題
2 学期	四則演算、小数・分数の計算 比、割合 損益 料金 速さ・時間・距離 濃度算・年齢算・仕事算・水槽算 順列・組み合わせ・確率 平均の計算・表の読み取り・図形・集合・推論

何で学ぶか(教材)

実教出版『高校生の一般常識+SPI問題集』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 板書・発表

科目名	政治・経済	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポ科	コース 体育
目標	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	使える	現代の政治・経済的課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の政治・経済的課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとするすることができる
価	A	わかる	現代の政治・経済的課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。
基	B	できる	現代の政治・経済的課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとするすることができる。
準	C	する	日常に関する政治・経済的課題に対して、主体的に理解しようとするすることができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 提出物 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 提出物 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第1部第1編現代日本の政治 第1部第2編現代日本の経済 第1部第3編現代日本における諸課題の研究
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第2部第1編現代の国際政治 第2部第2編現代の国際経済 第2部第3編国際社会における諸課題の研究
3 学期	

何で学ぶか(教材)

準拠ワーク プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループワーク ディスカッション

科目名	論理・表現Ⅱ	授業時数	週 1 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	3つの領域別の言語活動や複数の領域を結びつけた統合的な言語活動を通して、発信能力の育成をするとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら、伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評	S 使える	文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して、場面・目的・状況に応じた話題について、的確で適切な表現をすることができる。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用し、情報や考えを話したり、書いたりして表現することができる。
価	A わかる	言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており、聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して、言語の持つ役割や文化的背景を理解し、相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
基	B できる	英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて、その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり、またコミュニケーションを持つことができる。
準	C する	英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり、聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが、自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや、文化的背景に気づき、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	授業・学期間考査・クリアテスト	授業・学期間考査・提出物・インタビューテスト	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	助動詞・受動態 不定詞（名詞的用法・形容詞的用法） 不定詞（副詞的用法）
2 学期	動名詞 分詞による後置修飾・分詞構文 比較（比較級・最上級） 比較（同等比較）
3 学期	関係代名詞（主格・目的格） 関係副詞 仮定法

何で学ぶか(教材)

三省堂 MY WAY Logic and Expression I

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
タブレット教材
グループ学習，ペア学習
個別学習

科目名	英語コミュニケーションⅡ	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 準	S 使える	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	多様な場面における言語活動に積極的に取り組むことができる。
	A わかる	相手が表現する内容を整理しながら正しく捉えることができ、内容を的確に理解することができる。	事物に関する紹介や対話などを見聞きし、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。	できないことに挑戦し、他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	基本的な英文を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを理解できる。	事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすることができる。	できないところを人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察したりすることができる。
	C する	モデル文を真似て読んだり書いたりすることができる。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。	授業に臨むための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・プレゼンテーション	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	Lesson 08 Nudge 関係代名詞what
	Lesson 09 The Father of Braille Blocks 関係副詞
	Lesson 10 Do We Need That? 使役動詞
2 学 期	Lesson 11 The Vancouver Asahi 知覚動詞
	Lesson 12 From Small Companies to the World 仮定法 The Story of Malala Yousafzai

何で学ぶか(教材)

COMET English Communication II COMET ベーシックノート COMET 基本文法定着ドリル COMET 英単語
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	スポーツⅡ	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るようにする。体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動することができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	使える 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするができる。
価	わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
基	できる 基礎練習を正しくおこなひ、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション・集団行動 バスケットボール バレーボール
2 学期	サッカー バドミントン
3 学期	ソフトボール 卓球

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 ICT機器の活用
--

科目名	スポーツ概論	授業時数	週 1 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	スポーツにおける体力向上, 自分の体をマネジメントする能力、知識を養い生涯を通じてスポーツと関わり続ける人間を目指す。			

どのような力を, どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	日常生活でもスポーツで学んだ知識, 能力を活かすことができる。	スポーツで学んだことを考察し的確に行動に移すことができる。	スポーツから競技力向上だけでなく人間力向上のため, 日常生活の振り返りを行い評価・改善しようとするができる。
	A わかる	取り組んでいるスポーツの競技力向上に繋げることができる。	1つ1つの知識を頭で理解し的確に専門競技に繋げることができる。	改善点を克服する, 競技向上のため果敢に学びの姿勢を止めず他者を巻き込んでいく。
	B できる	学んだ知識, 技能を実際にスポーツで活かすことができる。	適切な用語・記号を使い, 他者に分かるように説明することができる。	分からない点等を自ら人に聞いたり, 他の者が困っている時に一緒に考察することができる。
	C する	スポーツについて基本的な知識を学んだり, 理解したりすることができる。	基本的な知識の意味を理解し, 用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備が出来ている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体力向上の科学的知識について 体カトレーニングについて 自分の体をマネジメント 栄養でパフォーマンスを高める
2 学期	・スポーツキャリアと職業について ・指導の場としての学校における体育・スポーツ活動やスポーツイベントについて 知る
3 学期	

何で学ぶか(教材)

大修館書店「改訂版 基礎から学ぶスポーツ概論」 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 タブレット教材 レポート作成

科目名	スポーツ総合演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	スポーツの専門的な知識や高度な技能の総合的な活用を目指した課題研究を通して、生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現及びスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	S 使える	スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身につけている。	スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に表現することができる。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組もうとしている。
	A わかる	専門的な知識等を取り組んでいる課題研究に繋げることが出来る。	1つ1つの知識を頭で理解し的確に課題研究に繋げることが出来る。	改善点を克服する、課題研究に対して果敢に学びの姿勢を止めず他者を巻き込んでいく。
	基 B できる	学んだ知識、技能を実際に課題研究で活かすことが出来る。	適切な用語などを使い、他者に分かるように説明することが出来る。	分からない点等を自ら人に聞いたり、他の者が困っている時に一緒に考察することが出来る。
	準 C する	基本的な知識を学んだり、理解したりすることができる。	基本的な知識の意味を理解し、用語などを適切に用いることが出来る。	授業を受けるための準備が出来ている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体力向上の科学的知識について 体力トレーニングについて 体育祭の種目決めについて スポーツにおける技術と戦術について
2 学期	・スポーツキャリアと職業について ・指導の場としての学校における体育・スポーツ活動やスポーツイベントについて 運動スポーツでの危険、安全確保について
3 学期	生涯スポーツの見方・考え方について スポーツ推進に向けた施策と課題について スポーツの「未来」について

何で学ぶか(教材)

大修館書店 「新高等 保健体育」 「新高等 保健体育ノート」 プリント ICT機器
大修館書店 「基礎から学ぶ スポーツ概論」

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 タブレット教材 レポート作成

科目名	体育	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
価	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
基	基礎練習を正しくおこなない、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名	基礎体力	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	初動負荷マシンを利用したウエイトトレーニングの実践を通して、柔軟かつ弾力性のある筋肉を獲得できるようにする。また、身体の調子を整え、怪我の予防を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	初動負荷理論を理解し、それに基づいた動作・リズムをマシンで表現することができる。	柔軟な身体を獲得し、さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	初動負荷トレーニングを活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
価 A わかる	関節可動域が十分に獲得されたマシン動作を身に付け、どこの筋肉・関節と連動しているかを理解している。	自分の身体の状況を理解し、マシンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基 B できる	弛緩→伸張→短縮のリズムが崩れず、応用したポジションでのマシン動作を身に付けている。	初動負荷理論を理解し、用語や単語を適切に用いることができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
準 C する	基本的なマシンの機能を理解し、動作を身に付けている。	柔軟な身体を求め、機能解剖や身体のしくみなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシン動作・リズム・ポジション
2 学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシン動作・リズム・ポジション
3 学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシン 機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループトレーニング ・映像学習 (動画)
--

科目名	自己表現	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	自己を表現する手段（書く・話す・傾聴していると示す）について幅広く学び、医療・福祉職で働く上での資質向上を図りつつ、受験に必要な表現する力を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	相手や目的、意図に応じた適切で論理的で時事をふまえた自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ、意見交換から考えを深め、自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
価 A わかる	意図に応じた適切で論理的な自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め、意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
基 B できる	自分の知識や体験に基づいて、要求される制限を満たしつつ、自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解して読み書きや意見交換ができる。	提出物の準備ができていいる。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
準 C する	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができていいる。（教材の準備・服装）
評価方法	授業、定期考査、発表	授業、定期考査、発表、提出物	授業、提出物、発表

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スピーチ（「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度、時間は30秒、40秒）、新聞記事を使った意見文（結論→根拠の展開）、テーマ型意見文（400字、600字）、課題文要約
2 学期	川柳（夏休みを短く切り取る）、課題文要約、テーマ型意見文・テーマ型小論文、スポーツ業界のプロについての新聞記事について気付きや感想をまとめる、短歌（2種類）、スピーチ
3 学期	スピーチ（1分間）、テーマ型小論文、課題文型小論文、スポーツ業界のプロについての新聞記事について気付きや感想をまとめる。

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材 新聞記事 専門学校・大学の過去問題、

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義 グループワーク ペアワーク 課題

科目名	課題総合実践	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	スポーツをする競技者だけでなく、健康増進のための食事のとり方を学び、アスリートがスポーツ栄養学をどのように活用しているか実践し、データを用いて検証する。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	競技特性に応じた、能力向上に必要な栄養素を理解している。	競技特性に応じた、能力向上に必要な栄養素を判断でき、そのメリット、デメリットを説明できる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働してスポーツ栄養について考察しようとする。
	A わかる	アスリートとして必要な栄養や、摂取時間等を理解できる。	アスリートとして必要な栄養や、摂取時間等を判断し、その効能について説明できる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働してスポーツ栄養について考察しようとする。
	B できる	スポーツ選手の食事について、一般の人と異なる考え方や競技特性による違いなどをする。	自分の競技において、どの実施方法が適しているのか判断し、説明ができる。	提出物の準備ができていいる。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
	C する	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができていいる。(教材の準備・服装)
評価方法	授業、定期考査、発表	授業、定期考査、発表、提出物	授業、提出物、発表	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	外部講師による講義・実習
2 学期	データ・資料の作成 スピーチ (1分間) テーマ型小論文、課題文型小論文作成 まとめ
3 学期	

何で学ぶか(教材)

プリント chromebook

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク、ペアワーク、課題、講演

科目名	選択スポーツ	授業時数	週 2 単位	全 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	各運動の合理的な実践を通して、運動能力を高めるようにする。また、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育む。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S A B C	実践の中で、技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中の状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出したりすることができる。	各競技での経験を生かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようことができる。
	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し、より大きな力を発揮するために、集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	専門体力を有し、競技に応じた技術を身につけている。	専門競技に必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っている時に一緒に考察することができる。
	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身につけている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、食育、または栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業	授業	授業

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	基礎演習
2 学期	集団練習・ケース練習
3 学期	実践練習

何で学ぶか(教材)

各競技による

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 競技ごとの練習

科目名	総合的な探究の時間	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	グループの活動を行う中で、他者と協力してより良い作品を作り上げていくことを通して、協働力、実行力、発信力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	調べた知識をもとに、言われた以上の工夫を加えて知識・技能を使える。	競技を考える中で、特に独創性があり、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み、課題を自ら設定して解決することができる。
	A わかる	学んだ知識をもとに、求められる水準で知識・技能を使える。	競技を考える中で、特に独創性があり、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して積極的に取り組み、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B できる	学んだ知識をもとに、他者とも協力しながら課題をやり遂げることができる。	競技を考える中で、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して熱心に取り組み、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C する	学んだ知識をもとに、難しい課題にも取り組もうとする。	競技を考える中で、他者と協調しながら構想を形にしようとするができる。	学習内容に取り組み、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	競技内容などの成果物	競技の内容などの成果物、グループ活動	競技内容などの成果物、グループ活動	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体育祭種目を考える
2 学期	進路学習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

chromebook エナジード スタディサプリ

どのように学ぶか(授業方法など)

<ul style="list-style-type: none"> 個人での調べ学習 グループごとでの活動
--